

最先端の縄文研究解説

八ヶ岳 jomon 楽会 「諏訪学講演会」初回

縄文文化の学習や発信に取
り組む原村などの有志グルー
プ「八ヶ岳 jomon 楽会」
(会田進会長) は22日、連続
講座「諏訪学講演会」の第1
回を原村の八ヶ岳自然文化園

で開いた。縄文時代の調理文
化や稲作の文化論について、
研究者2人が最先端の研究成
果を解説し、約30人の来場者
が聞き入った。

東京大学総合研究博物館教



縄文時代の調理文化についての
研究成果を解説する米田穰さん

授の米田穰
さんは「土
器付着物と
古人骨の同
位体分析か
ら考える縄
文時代の調
理文化」を
テーマに話
した。東日

本は縄文時代、サケやマスを食べ料として繁栄していた」とする「サケ・マス論」についての研究内容を解説。各研究者の論点、検証の方法、「サケが『第2の主食』だったといえるのか」といった研究の結果を紹介した。

東京大学大学院医学系研究科教授の梅崎昌裕さんは「稲作の文化論―中国少数民族とラオスの水稲・陸稲栽培社会の調査から」と題して話した。

県の地域発元気づくり支援金を活用して実施。今年度は10月まで全4回の講座で諏訪地方の古墳、古代「諏訪国」の設置1300年などを題材に開く。(宮沢知史)

今後の日程は次の通り。

▽第2回＝8月26日、八ヶ岳自然文化園。「5世紀以降の信濃国と諏訪」西山克己・梶埋蔵文化財センター研究員、「信濃国の前方後円墳」風間栄一・長野市教育委員会文化財課長補佐

▽第3回＝9月30日、八ヶ岳自然文化園。「諏訪地方古墳の特徴とその性格」児玉利一・諏訪市博物館学芸員、「稲束貨幣と日本の国家形成」北條芳隆・東海大学教授

▽第4回＝10月22日、岡谷市イルフラザ・カルチャーセンター。「諏訪の都を握る―岡谷市榎垣外官衙遺跡の調査成果―」山田武文・岡谷市文化財調査員、「縄文社会から諏訪国へ―古代諏訪国建国1300年―」会田進・八ヶ岳 jomon 楽会会長